東利幹新誌

一

J-157-1

安政二乙卯年開鐫

米利幹新誌

壽日樓藏板

題采利幹新誌

太初二霊自天下降。畫海水以造建國土也。於是祖山始見人畜初生至蛭児乗葦船浮乎大洋少彦縁粟莖渡乎常世則既有教化人民交易品物之道也矣。然則如閻龍之求人煙國土攻古之旋混圓

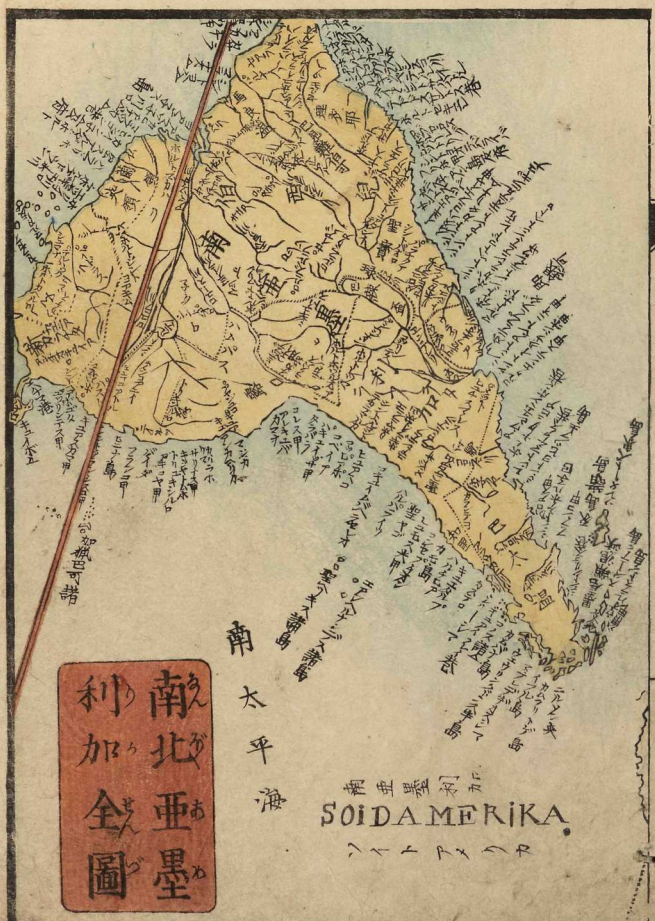
大地抑示末也者歟児女年甫九歳。讀論語於家翁之膝下。傍見机邊有萬國圖問曰。何地是爲亞墨利加乎。家翁乃親指示其地方。且爲授地學正宗。坤輿圖識二部所載米利幹誌曰。汝須熟讀此二書。二書並譯西洋説者。而児女猶苦

難通曉家翁憐之重譯之以俗中之俗語児女大喜隨而筆受之稍積成冊子更設名曰米利幹新誌亦加畫圖足以知神聖之閲物及海外合踏之地如此則何不可之有

嘉永六年小寒前一日　海西渙夫戊申識

ジルランド
國兒根德
北亜墨利加
北太平海
亜太臘海
南亜墨利加
南太平海
KAALT.

萬國地球全圖


南北亜墨利加全圖
南太平海
SOIDAMERIKA.

NOORDAMERIKA.
ノールドアメリカ
北亞墨利加
ボス諸島
セテルン島
シントトーマス
シントヤゴ
シントロイス
シントカルロス
シントアウグスチン
ロッス港
ウシントン甲
オルホルド甲
ホルトイスス
フリロロイ
フロリダ
ヒテカス港
新北ウレス

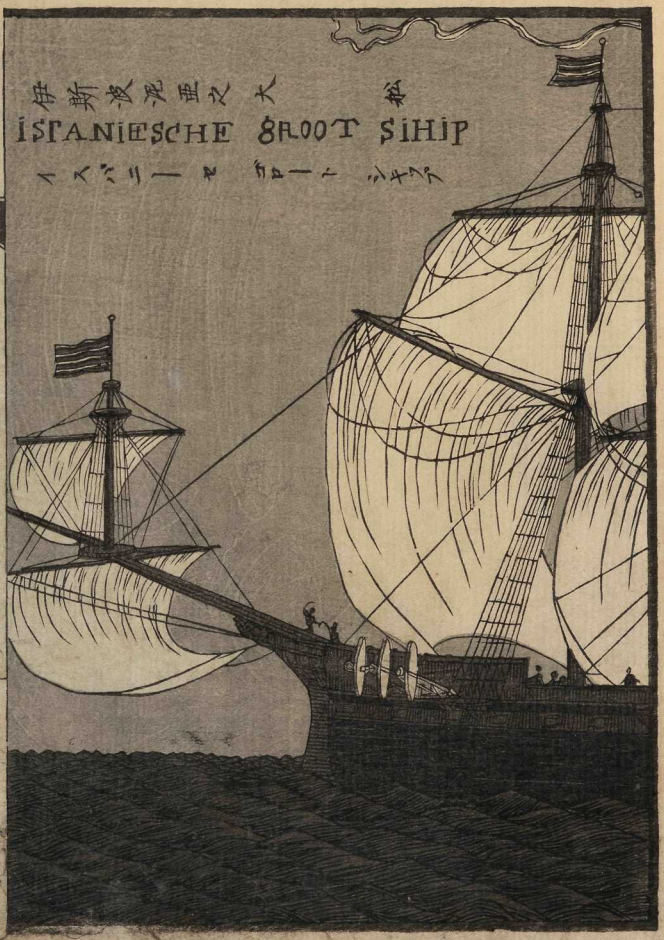
ISPANIE
ISABERLA

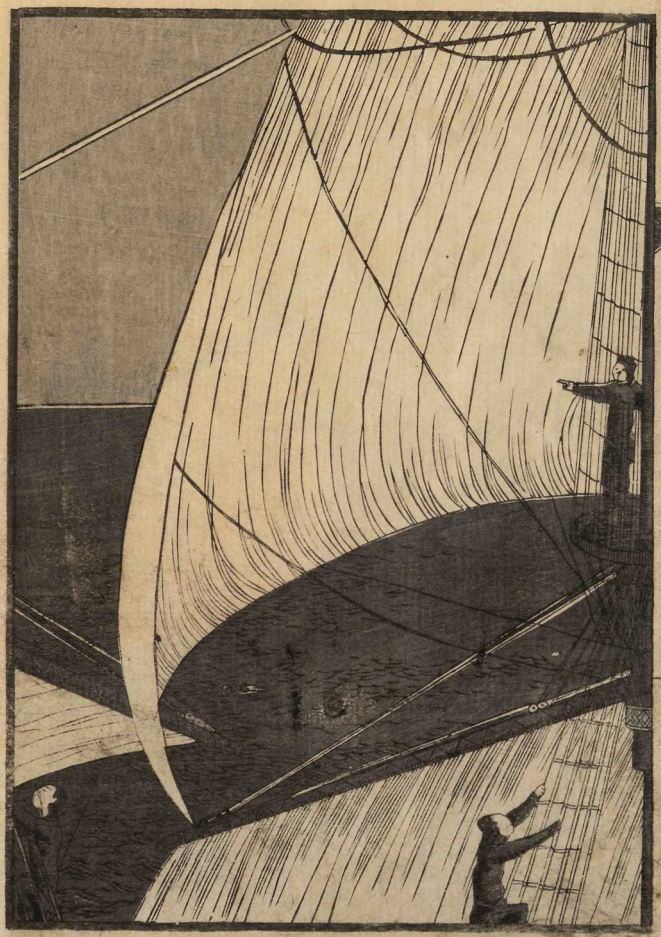
KORONBUS

AMERIKUS
波尔杜尔國の
臣亜墨利屈氏

WASINKTON
諸聖東の肖像

閣龍氏
伊斯波
泥亜より
出船


伊斯波尼亞之大船
ISPANIESCHE GROOT SCHIP
イスパニヤ ヲーロク ヤ ーリニスハ



Spanische post ship
スペイン　ポスト　シップ
其二
檣の上に
登りて
新世界を
検出を

ボリハルゞ
忠義
安得山の
嶺上を
越る
BORIBAL

米利幹新誌惣目録

巻之一

一 閤龍この人米利幹國を検出せ話
一 米利幹洲總説
一 閤龍の傳
一 北亜墨利加洲
一 新伊斯把泥亜
一 新墨是可

巻之二

一 角利伏爾泥亜
一 共和政治草分の話
一 共和政治三十一國
一 共和政治附属二ヶ國
一 共和政治海軍戦艦大數
一 詔聖東の傳
一 新思可齊亜
一 加拿太
一 新貌利太泥亜

一　卧兒狼德

一　亜墨利加魯西亜異人

一　南亜墨利加洲

一　新尾辣那達

巻之三

一　新尾辣納太の人ボリバル其國を獨立洲とまる話

一　亜瑪鑽

一　智利國

一　孛露國

一 伯西爾
一 金加西蠟國
一 刺伯辣多
一 巴太温
一 カライビセ諸島
一 ハルクスランド
一 大地
一 新南ゴルギイ島

巻之四

一 墨利加諸島
一 牙賣加
一 獨眠悟
一 威斯涙申達多里
一 墨是可國
一 花地
一 南極地未開新洲
一 北黙利加氷海の地

巻之五

一　北墨利加洲の内俄羅斯屬地
一　北墨利加洲の内英吉利屬地
一　美利堅の沿革地勢
一　亜墨利加の人民工作技藝ふ秀ぢ
一　新國刑罪の等
一　新國の人貧を濟ふの話
一　新國風儀大概
一　惣拾

目録終

米利幹新誌巻之一

剛龍とふ人米利幹國を撿出せ話

それ世界ハ鶏子の如く渾円ふくと大虚ふ懸りくる故ふ合踏の地と云て足の裏を合て立國もあるこのあり。則米利幹州ハ　大日本と足の裏を合せくる國あり。漢土天竺和蘭の國よりも猶足の裏を合せくるとつゝくこの國あるゝ故ふ。ゆゑ〳〵ハ和蘭者の諸國ともいまゞ合踏の地ふ人烟国土あるこをを有る者絶てあるゝ事なるふ。　天朝　後土御門天皇御宇ふあこり和蘭ゞの大國伊斯把泥亜とふ國の客分の居下ふ。剛龍とふ人の有り

契人幼年より航海術とのみて大海を渡る術に自在を好む。閣翁
つねに海上の風氣を觀ることのたく凡そ大氣の流動して風を生ずるハ必
ず國土山川あるて大氣を障碍するものある故なり。今大海の西方に國土
山川あるとを笑のぶることのへども。時に西の方より風の吹來るとあるハ。西方に
あるて一世界のある故なるべし。ひとり試をなす度ごとに船を大海
に浮ぶるごとに必ずこれを用ひるに。一日遥かなる洋中にて異人の見ること
を列れざる異木の流れ來るをみて歡喜たのしく是大海の西方にあるて
人烟國土のあるを證なり。願たくハ其世界を檢出して其國土を開闢せん
と思ひ立意を決して遂に成るものを伊斯把泥亜國王に奏聞あるるに王

妃閣弦が大志を嘉し。閣弦を拔んで大船の總督となす。黄金一萬
兩を賜ひ兵粮費用を助けしめ。大海中の世界を見しむ。閣弦我明
應二年彼國の八月三日。伊斯國のパロスと云ふ港より朝開きして鍼路を西
へ向て。千萬里の外に新世界を檢出さんと欲す。既にして浪を乘ること三
十四日。東西南北空水森茫。唯海より出て海に入る日の光を仰ぐのみ
外に一物の目睫を遮るものなし。こゝに於て船中の者ども口々に閣
弦を罵ていはく。閣弦先生そもそもと云益のことを立て莫大の兵入用
をもとめ。先例もなきなる軍艦を仕立。果もなれぬ大海に乘出し。既に
四五十日を経ぬるとの人ども一撮の嶋も見ず。人物國土いづれのところ者

で。我あハ古今ふ父母もあれば妻子もあり。よき加減ふ老役をとめ人
今日より三日を限り。り一新世界を撥出さるふあとハ我ホ一合せ汝
を海ふ沈めて後世のいましめとせべしと。罵て其ハ岡部氏人ふ対して曰
汝ふ何ぞ國恩をあらそざるや。忠義のこゝろふ海底へ身を投ぐることも我
いさゝかも退むべからずとて。其の下官エスコヘルと云者を使て付る事頻
天眼通をひらて。西方ふ人烟國土あることをしる。部下のものども五日を
罵るも理ふあらねども。五日今三日を待こゝろ。衆ふ人火の烟りを
見せ一むべし。其方櫓上ふのぼりて望コ一。ふぐ二万ぐ一孤島ふても
人のけはいなしふ。大声を発して我ふ告よと。今ハ下ばわエスコヘルトも

うとおもひゆくに。直ち檣の上なのぼりて四方の海上を遥にとんで渡る。天雲の向伏所ハ雲ゐ霞ゐとんでゐるのみ。やがて遠眼鏡をあてゝこれを見る。果して島あり。とんで渡ゐこゝろ設ゐ大声を発し。これより坤の方ゐあたり新世界をゑんとゆくに衆人おのゝ檣の上なのぼりて見るゐ果して島のえんけわバ。よろこぶの限りなく快しく下りて閣紘を称し。先の言を謝して衆を請ふ。閣紘笑てこれをゆるし。やがて船をよせてこれを検し。島を聖サルハトルと名く。是もるゐも北亜墨利加洲花地國南辺の島なを有なり。閣紘ゐ此地より南ゐ船を遣てハイチ島をゆこう。因て一先改國して國王ゐ新國を検出するゐを言上し。其後ゑゝハイチ島ゐ往来ゑ

るが。後柏原天皇の永正三年丙寅あるこりて。始て其本地に上陸せるを知る。これ今の閣龍比亜の地なり亜墨利加洲を探りしるべしこれを嚆矢とす。尋て永正五年。波尓杜尾尓國王の臣下に亜墨利屈氏と称す者。閣龍が新世界を検出しこれを大功を欽慕し。天地の廣さ猶氏上にも新世界あるべきなり。我まこと新しき國土を切て功を後世に建んと。大船を荒外の荒海に乗出し。遂に閣龍が知らざる大地の南のくに今の瓦辣那多の地に至り土地をひらくこと數所。大に地理物産を尽せり。功閣龍に及ずといへども。土地を開くこと大に勤めたりと称れて今に至り南北両洲を統称して亜墨利加と呼ぶなり。亜墨利屈氏の

名をのこすべくとのべり。西洋人云ふ地を探ぐるハ閣弦をゆるして嗜矢と
也。ゆゑにバ氏州をバ閣弦州と称すべきを亜墨利加とのハ亜墨ばと突
然閣弦が新世界を探ぐるハ蓋世の偉功とのべ

米利幹州總説

亜墨利加ハ蕃語にて新世界の義なりとのべり。ゆゑにハ亜墨利屈氏
の名ハ。氏世界をひらきたるゆゑ故に。新世界氏と称するゆゑもあるべ
べ。其大州把那麻の地峡地球の図をハ系筋の如くなりて連續する
ゆゑ南北分ち南ゆゑを。南亜墨利加州とも。其廣さ玖羅巴ゑと

閑龍是班牙國の
王妃イサベルラに
謁見せ
Rolandus.

Isabella

もあるべし。少るを北亜墨利加州とも。其廣さ亜細亜より迫らべ
天度ハ北極圏より赤道に至り。南極圏より赤道に至る。故に氣候寒
熱國によりて不同あり人の血筋を異にして面色容貌別に一種を成
す數種あり今これを三種に分ちて一ハ土人の血筋の者。二ハ西洋人の
血筋。三ハ白皙人黄黑人等の血筋なり。その北極圏より赤道に一
年中雪あり。霧深くして眼前を失せず。冬ハ盈ちて日光を隔
て土人身の長我國の寸尺にて四尺八分位其火地に近きところハ大にして
同じくらい。海外にて西洋度の諸嶋あり。その諸島のこと未だ出ず
閑話の傳

閣篤名ハキリストホリユス姓ハコロンビユス。漢人畧稱して閣篤とゝ。ゝと意太里亜部中熟弩亜とゝ所の人なり。其先ハさうべき家柄のもゝなるれども。その父ハ漁猟を業として亜を渡りたるとゝや。閣篤生れて器量もゞれて天才大志あり。幼年の時より航海の術を学ばして。其近隣諸國の海辺に於てハ。身自揖をなして游歴せざる所のなし。其前の人に語てゝゝ。萬國渡海の術に於てハ。古往今来閣篤氏に及ぶものなしと。閣篤聞て猶ほ備りとせず。ひたすらに其術を講究して盈虧を忘れぎ。曾て天文地理を觀察してゝゝ。天地の大なるハ限りなきものなるに。今世界東方諸國に開けたりとゝゝ。いまゞ我歐羅

巴より西方の国土あるるのを聞き。東方の国土あるらんか。西方の国土あるらむ人間國土あるべきあり。考土の人のまさしの地を生ずるのあるべざるを故に。國土あるべしとおもへるは愚なるものなり。吾たまく人と生れて。航海の術を得ざり須べくして。西海数万里の間を探りて。千古未聞の国土を發出して。祖國のために大功を立べ大願成就すべし。そは不幸にして国土をうるの乃ちとも。我欧羅巴の地より發して西へと船をやらん。地球は混円なるものなれば。なるべし亜細亜州の東岸に達するの船路を開くの必定なり。是まで二つの功なるべしとあるひとの胸中に奇策を懷くの久しきへども。身貧困にして大船を仕立るの

力をし。因て熱弩亜の政官に出て願ひ入れ。私義二夫住りに所をかりて
國家のこれに國土を拓りひらしなら人願ひくに官より令可を賜ひ旦
往来の費用を助けるべと許へり。其時に當り西洋諸州の國王我
勝に遠近をまねぐり領地を弘むるを務とするものなる世間云
頼の法師等貨利を為出さんが為に種々の偽言を申出官を欺く者
多きがゆえに政官の諸役人共にて願書を為上ず。因て彼を
偽宅して。その兄と謀りて英吉利王に所得あれば。彼に許へんと
英國にかえりて。その政官に願書をさし出しける。政官ゆえに
因て大に歎息して去りぬ。猶懲ずに伊斯國に至りて其夫

の書付を献じ。これまで諸國の官府に願出ることなく。我身分卑賤
なるゆゑ敵に計策あることもあるべし。わかれむ。憐みを垂るゝと折入
て願ひ奉る。時に伊斯國の王妃名はイサベルラと霊慧にして下を恤み
性質あれば。閣弦がゆゑの理あるをゝんじ。やがて黄金若干を与へて。
その費用を助けて閣弦が所願を達せむことを於て閣弦志を決して
亜墨利加大州を捜出せらるゝを乞ふ。王妃大ふよろこび閣弦が功を
大いなりとして擢でゝ米利加諸島の總兵官に任じて。新世界を全く
しむ。あるゆゑに新世界の人俄に閣弦が制を受ることあんでゝ。べきはざる
ところ有のゆゑや。爭乱あゝ起りしゆゑ。伊斯國王これを聞て別に

海軍の將士をつかはして。閔弦を召還さしむ。されども伊斯國王の閔弦を待ちのぞみてわかるゝを無りけり。後數年ありて閔弦みまかる。先年の地方をたづねし。始てその大地を檢出せ。崑崙島四度目の航海とかや。閔弦此地に留住せるこの數年ありて。大王地を開きまゐらせ頃。なほらし死物産茅種をもつて老年の後身を養ゐんとそ。國に歸りたりける。

そもそも死世のるらさそ。王妃イサベルラ既に殂りたりしかば閔弦哀歎悲痛のあまりに堪ぬ身に病を発して我永正十六年。彼國の五月二十日にあつけし。遂に黄泉の客とぞなりぬ。

評に云。西人ホカルト氏の筆記中に閔弦の賛あり。今その文を翻

譯せらるゝ。閣弦蓋世の偉功を建てるものにて。その故郷の者これを譖らるゝの恐るゝらむ。容あり閣弦を誡て云。汝新に國土を発見せゝ偶然の僥倖なり。のゝ海中に大地あらざるべ。唯愛人の情を傷ふのみあらん。大罪を國王に奏ん。明らかなりと。閣弦答へていはく。実に然りとなれども我新世界を探り得たる。猶机の上に鶏子を竪て早るが如しゝ。君よく早るゝを得るや。容云へるに出来ざるべし。汝いとくもるゝとのみ。閣弦もまた卵を採り其先をところを机に打て破りて早てのたまく。我新世界を得たるも猶なくの如しゝと。容その才に服せ。実に一刀功なく萬骨

拂るゝの仏あり。大功を立る間に又卯に傷をつくるが如き患なきとはいへども。閩浙西海に新世界を見出してより。西客尋ぬる地に至り。其地の南北とも西洋諸國王に併せられ。風俗も自然と善くなり。飲食衣服善美を尽し。又その山川より夥しく金銀銅鐵を出せをりて。民業繁昌せりとへども。唯くるしびつきい西客國に入てより。土人に疫癘の患をつくり。或はその苛政に傷られ。干戈に命を隕すの勝て算ふべからず。明應三年より今嘉永六年に至るまで。歴數およそ三百六十六年の間に異國の人別土人の血筋の者は六千萬人にもぜ。他國人の血筋の者

西客國ヲ入レタリ
苛政ヲ傷ミ或ハ
千戈ヲ命ヲ
ありとき

ハ其數算へがたしとぞいふ。

北亜墨利加洲

北亜墨利加ハ。北極未審地より南部宇華堂といふ地ニ至るまでの惣名なり。域中暗得山一名コルヂルの大山脈國中ニ綿亘ってつゞくこと二千里。其間ニ數多の枝脈を分つ。其間ニ數十の平地ありて所々ニ大國を開けり。さてこの山脈岐れて二ツとなり一ツハ北極の氷野ニ趨り。一ツハ沈て海峡ニ藏伏し。遠く亜細亜洲ニ亘り。たゞちニ國伯特國の意貌大山脈ニ連るといふ。今北亜墨利加ニある所の有名大國を

舉るゝ左の如し。

新伊斯把泥亜

新伊斯把泥亜（旧名墨是可）失地なり。人の數多の土豪あり。所々に獨立割據して。互に其の威を爭ふ。三百年前伊斯國の名將名ハコルテス一軍を率て失地を取る。其疆界少ハ新墨是可。南ハ把那麻ゆゑ。國中に三大鎮あり。

其一を墨是可とす。これを一國の首府とす。人口二十萬市中繁昌。富家もっとも多し。伊斯國よりあくまでの小王あり。大政廳を建て訴をきく。失地産物きわめて多し。中に白銀を上とす。故に

冨る者の車の輪。もて通用の銭切手の類へ。くさ銀をて造るとの。
其二をキアタルセイラとの。人口三萬竈の烟わぎのふ。寺院もて学校有。
其三をキアチマラとの。諸國の商人集て市上繁華もて学校あり
むらーーその近辺ゐアカヒルコとの一府あり。もろるゐ我寛政の未大地
震ありて。都府半地中ゐ落入。今ハ荒地とありて纔ゐ一村落を残
せり。その把那麻ゐ近処所を宇華堂との。こゐ英國の城あり。伊斯
人我領地を掠あられんりをおそれ。城郭ニッを築おてこれを防ぐと
いの。英地の人民四十六萬六千餘。そのあこりの海濱ゐハ多くの龍
涎香漂ふゆつき。土人これを拾て西洋人ゐ交易して。駿しく利をゆること

ふ。域中ハ金銀涌出る墳あり。年中ゆるさろ無量あり。その五分一を本國伊斯把尼亜ハ納る定あり。式新イスパニヤの全州の裏ハ。我三十六町一里の法ハ千三百里餘ありとかふ。氣候ハ海辺ハ濕熱ありとかぶ。内地ハ暑くゆる地ありとかつり。

新墨是可

これもと伊斯國の附属ありし。西ハ共和政治州。南ハ新伊斯國。北ハ三ヒラゆるぎる。考地も亦ハ墨是可國の一部ニ已ぶ。我弘治年中ハ伊斯國の人その地の小部を割て新ふ一國とあるゝる故ハ。新墨是可と名くとかふ。土人種類多きゞ中ハ。西洋人の血筋の者ハ中ふるてとりとかふ其

首府をサンタヘとゝふ。總督鎮あり。おゝく廣大なる學校を建つ數百人の生徒こゝにあるべし。其國七八分通りハ山岳なれとも。其間くの土地肥えるゆゑ。五穀を産出すること多し。土人好んで鼈を喰ふ。毎月鼈を賣る市日あり。この土ハ皮ハ彩紋ありて。とりわけ美なる小蛇あり。女子ハこの小蛇の皮をもて髪の飾とするとゝふ。

米利幹新誌巻之一終

二万五千七